

NUCLEAR SAVAGE
THE ISLANDS OF SECRET PROJECT 4.1
© 2011 Primordial Soup Company

ニュークリア・サベージ 死の灰をあびせられて
— マーシャル諸島極秘人体実験

2017年10月13日(金) 上映 18:30~(受付18:00)
学習会 20:00~20:50

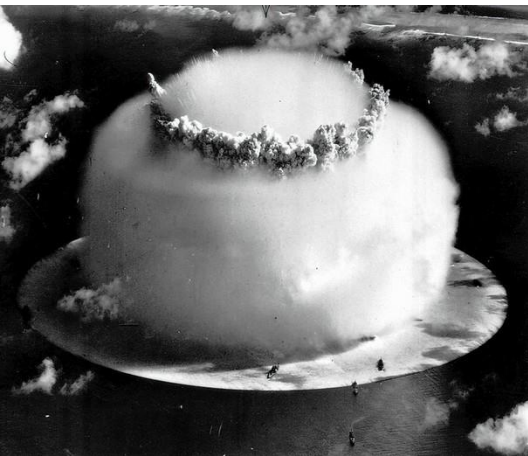
講師 豊崎博光さん (フォトジャーナリスト) 資料代 800円 ※予約優先
(当日参加可)

会場/連合会館 501 会議室 (定員 50名) 千代田区神田駿河台 3-2-11
アクセス・新御茶ノ水駅 B3 出口 1分 (淡路町、小川町駅も B3 出口まで歩く)
・JR 御茶ノ水駅 聖橋口 徒歩 5分

主催/国際有機農業映画祭・特定非営利活動法人 原子力資料情報室



ビキニ水爆実験後のマーシャル諸島島民への 極秘被ばく人体実験（プロジェクト4.1）を追いかけた 貴重なドキュメント映画です。ぜひご参加ください。



** 作品紹介 **

監督/アダム・ジョナス・ホロヴィッツ

2011年/米国/87分/日本語字幕

原題/『Nuclear Savage The Islands of Secret Project 4.1』

URL/ www.nuclearsavage.com/

1986年、アダム・ジョナス・ホロヴィッツはマーシャル諸島で最初の映画を撮影し、そこで目にしたものに大きなショックを受けた。放射性ヤシの実、漏洩する放射性廃棄物貯蔵施設、過密なスラム。これらは全て米国の植民地時代に受けた、67回に及ぶ冷戦期の核実験の影響だ。核実験は島々を吹き飛ばし、人々に壊滅的な打撃を与えた。

20年後、アダムはドキュメンタリー映画“Nuclear Savage”を撮るためにマーシャル諸島に帰ってきた。米政府によって意図的に放射能で汚染されてから数十年後の島民たちの尊厳と生存をかけた戦いを生活に密着して描き出したのだ。この作品は、近年、機密解除された米政府の公文書や、生存者の証言、非公開だった写真などにもとづき、これまで語られてこなかった物語の真実の姿を明らかにしている。米国の科学者たちがどのようにして太平洋の楽園を放射能の地獄に変えてしまったのか。そして、マーシャル諸島の人が、30年にもわたって死の灰が人体へ与える影響を調べる実験動物として扱われてきたという事実を。

“Nuclear Savage”は私たちに民主主義の核心を突きつけている。

講師紹介 豊崎博光 (とよさき ひろみつ)

フリーランスフォトジャーナリスト。

1948年横浜生まれ。1968年に東京写真専門学校報道写真科二部を卒業後、フリーとなる。返還前の沖縄、在日朝鮮人や韓国人、アメリカの先住民インディアンなどを取材後、1978年から日本や世界の核被害者と被曝者、反核・反原発運動などの取材を始める。主な著書は、『核よ驕るなかれ』（講談社）、『グッドバイ・ロンゲラップ』、『アトミック・エイジ』（いずれも築地書館）、『核を撮る — あるフォトジャーナリストの旅日記』（無明舎）、『核に触まれる星・地球』（平和のアトリエ）など。共著に、『核の20世紀 訴える世界のヒバクシャ』（平和のアトリエ）、『写真・絵画集成 核・原発』（日本図書センター）、『水爆ブラボー』（草の根出版会）など。

1995年12月、『アトミック・エイジ』で「第1回平和・協同ジャーナリスト基金賞」を受賞する。



主催 国際有機農業映画祭/特定非営利活動法人 原子力資料情報室

協力 特定非営利活動法人 日本消費者連盟/特定非営利活動法人 日本有機農業研究会/原水爆禁止日本国民会議

予約・問合せ 国際有機農業映画祭事務局 [WEB] www.yuki-eiga.com/contact [FAX] 03-5155-4767



第11回 国際有機農業映画祭 いのちを引きつぐ 2017年12月3日(日)

会場 全電通労働会館ホール 詳しくは <http://www.yuki-eiga.com/> をご覧ください